

自然生命科学研究支援センター 分析計測分野よりお知らせ

平成25年度岡山大学大学院 NMR ユーザーセミナー（春）の御案内

日時 5月13日（月）18:00-19:30
場所 工学部1号館 3階第6講義室
タイトル 核磁気共鳴装置の原理から応用まで

内容 核磁気共鳴装置（NMR）の原理と装置について理解すると、実際に使うときに役立ちます。本年度のセミナーでは装置の原理から装置の仕組み、測定のコツや注意しなければならないこと、さらに特殊な測定、大学院NMR のローカルルールやマナーまで、NMR の初歩から応用まで幅広い内容を講義します。

本年度のユーザー試験（春）の受験者は必習です。新規使用者は御参加下さい。現使用者でもNMR についてさらに理解を深めたい学生ユーザーの参加も歓迎いたします。**この4月からの一部、測定やマナーのルール運用の変更もあります。これについても知りたい方はご参加ください。**

連絡・問い合わせ先：大学院自然科学研究科（工学）片桐利真
内線：8605、e-mail:tkata@cc.okayama-u.ac.jp



Russell Varian

Russell Varian returned to Stanford in July 1946 from his radar work at Sperry Laboratories on Long Island. He believed that nuclear magnetic resonance would be used for more than just the measurement of magnetic field strength and nuclear magnetic moments, and felt that NMR would be even more useful in chemical analysis. Bloch and Hansen were not convinced but requested that he prepare an initial draft of a patent for them.